

「地域外の仲間増が重要」

島根県立大
田中准教授
中山間地の将来語る
浜名区関係人口による地域活性化の
事例を話す田中准教授

|| 浜松市浜名区

浜松市と静岡文化芸術大はこのほど、中山間地の将来や課題を考える「まちむらリレーション市民交流会」を浜名区の浜北文化セ

ンターで開いた。島根県立大地域政策学部の田中輝美准教授が、離れた場所に居住しながら多様な形で地域と交わる「関係人口」をテーマに基調講演した。

田中氏は米作りやイルミネーションイベントなどの企画を通じて若者を呼び込み、にぎわいを生んだ山陰地方の事例を紹介。都市部で人とのつながりやふるさとのような場所を求める若者が多い状況から、関係人口が近年注目されている側

面を解説した。関係人口が増えることで住民が地域再生に関心を持つようになる期待感を示し、「地域外の仲間を増やすことが人口減少時代の地域づくりには重要」と強調した。

静岡文化芸術大の船戸修一ゼミは浜名区引佐町久留女木地区での調査結果を通じ、生まれ育った集落の実家から転出した子ども「他出子」が関係人口として地域の担い手となる可能性を説いた。同区のNPO法人ひずるしい鎮玉はカフェを交流拠点とした活性化の取り組みなどを発表し、それぞれ質疑応答が交わされた。